

## 事業計画書

事業名	高齢者及び子育て世代の交流拠点づくり
場所	サンウエル沼津1階 シェ・ワタナベ内（沼津市日の出町1-15）
実施予定期間	平成29年1月1日 ～ 平成29年3月31日
日程	実施項目・作業項目
	<p>【日程】</p> <p>1月 第1回目寄せ植え教室に向けて、寄せ植え展示用造作の制作  2月4日（土）第1回目寄せ植え教室 打ち合わせ  2月18日（土）第1回目寄せ植え教室・交流会</p> <p>日常的にサンウエル沼津に立ち寄っているものの話し相手を見つけることができない方もいるため、交流会を行くことで、教室以外での交流に繋げ、カフェの交流拠点としての活用を促す。</p> <p>【講師】</p> <p>地元の園芸農家やグリーンアドバイザーから無償での講師を引き受けていただけるよう調整済み。</p> <p>【参加費】</p> <p>1,000円/回 内訳（園芸資材500円、交流会参加費500円）</p> <p>【参加者】</p> <p>近隣地域の高齢者や子育て中の母親  ※1回の講座で10名程度の参加を目指しているが、初めての取り組みのため、初回は5名を目標に開催予定。</p> <p>【H29年度以降の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年6回を目標に寄せ植え教室を開催する。</li> <li>・今回のファンドを初期投資として利用し、寄せ植え展示用造作を制作し、H29年度以降は、参加費1,000円（園芸資材500円＋交流会費500円）の範囲内での実施を検討している。</li> </ul>
事業効果	<p>園芸に興味があるものの、スペースや資材の問題から遠ざかっていた人たちに、気軽に園芸を楽しめるイベントを開催することで、インテリアとしての園芸の楽しさを知ってもらう。</p> <p>また、話し相手を探している高齢者や子育て中の母親を繋ぎ、世代間交流を図ることで、孤独感の解消や子育ての悩み相談の場となるなど、地域福祉の向上が図られるとともに、イベントで作成した作品の一部を展示することで、生きがいをもって取り組み、閉じこもりがちな高齢者や子育て中の母親の社会参加が促進される。</p> <p>さらに、多くの人に作品を見てもらうことで、園芸に興味を持つ人が増え、新たなコミュニティが広がることで、まちづくりの活性化に繋がる。</p>

※評価の視点については、募集の手引きを確認してください。

公益性	<p>※不特定多数の住民の利益の増進、地域のまちづくりの推進に寄与する事項等を記載してください。</p> <p>園芸を通じて、様々な年齢や立場の住民が交流できるコミュニティづくりを実現することで、孤独感や子育ての悩みの解消などに繋がる。また、花や緑に触れることで豊かな情操が養われ、心豊かなまちづくりに寄与すると考えている。</p>
発展性	<p>※他の住民や地域との連携や、どのような波及効果が見込めるのか記載してください。</p> <p>地元の園芸農家やグリーンアドバイザーから直接指導をしてもらうことで、園芸への興味・意欲を高め、新たな知識と経験を増やすことができる。</p> <p>また、参加者間の世代をこえたコミュニティづくりを行うことで、園芸を媒体としたまちづくりの活性化が見込まれる。</p>
地域性	<p>※地域の実情・課題の解決に向け工夫した点、地域資源の活用などについて記載してください。</p> <p>地域福祉推進の拠点であるサンウェルぬまづには、高齢者から若い世代まで様々な立場の住民が利用しているが、利用者間の交流が図られていない現状がある。</p> <p>せっかく多くの人が行きかう場なので、園芸を通じて利用者間の交流を図る仕掛けを作り、新たなコミュニケーションの場とする。</p>
必要性	<p>※事業を実施する意義や、財政的に支援を要する理由について記載してください。</p> <p>園芸は好きだが、十分なスペースを確保できなかつたり、資材を揃えることが難しい方も多し。また、一人暮らしの高齢者や子育て中に孤立してしまった母親には、花や緑を楽しむ気持ちのゆとりや生きがい求められている。</p> <p>園芸を通じて新たなコミュニティづくりを行い、世代間交流を図ることで、孤独感や子育ての悩みの解消に繋がる。また、完成した寄せ植え等の作品は、店内に一定期間展示し、多くの人に見てもらえる場を設けることで、普段あまり表に出ることのない人たちの生きがいづくりにも繋がると考えている。</p> <p>今回は、新たな取り組みとして実施することから、展示スペースの整備など、初期投資としての支援をお願いしたい。</p>
先導性	<p>※事業の新規性や独自性など、工夫した点について記載してください。</p> <p>参加者間だけでなく、地元の園芸農家やグリーンアドバイザーとの交流から生まれるものも多く、生産者・指導者・参加者、それぞれの立場から意見交換できる場となる。</p> <p>イベントの回数を重ねることで、参加者が自ら考え、自分らしい作品づくりに挑戦できるとともに、指導者の指導力の向上にもつながる。</p>
継続性	<p>※助成事業終了後に、どのように継続的・自立的な活動に取り組んでいくのかについて記載してください。</p> <p>完成作品を展示し、多くの住民にお花との豊かな触れあいを感じてもらえることで、「自分もやってみよう」と思う人が増え、参加者を継続的に募集でき、園芸を介したコミュニティが広がってゆく。</p> <p>今回はファンドを利用し、展示スペースの整備を行い、平成29年度後期以降の事業に関しては、参加費の範囲内でイベントとして継続・発展させてゆける。</p>